

△使用上の注意



してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります)

1. 次の人は服用しないでください

(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。

(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬

3. 服用前後は飲酒しないでください

4. 長期連用しないでください



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。

(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。

(3) 高齢者。

(4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。

共通事項解説〔1〕参照

共通事項解説〔2〕参照

併用すべきでない一般用医薬品の薬効群を記載しています。併用した場合には医薬品の作用の増強、副作用の増強等が考えられます。

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬では本剤と重複した成分や類似の作用をもつ成分を含んでいることが多く、併用による危険性が考えられます。本剤を服用している間は、これらの医薬品を服用できません。

アルコールとの相互作用により、副作用があらわれやすくなることなどが考えられるので、本剤を服用前後は飲酒できません。

また、アルコール常飲者では、肝臓の薬物代謝酵素が活性化されているため、アセトアミノフェンを服用すると毒性の強い活性型代謝産物が増加し、重篤な肝障害があらわれることがあります。

本剤は、症状が出た時に服用する対症療法薬で、長期に服用するものではありません。漫然と長期に服用すると副作用があらわれるおそれがあるので、症状がよくなった時点で服用を中止すべきです。また、短期の服用で症状がよくなる場合には、他の疾患の疑いも考えられます。

共通事項解説〔3〕参照

共通事項解説〔4〕参照

高齢者は一般に代謝・排泄機能が衰えているため、薬剤が蓄積されて、作用が強くあらわれることがあるので、本剤を服用前に医師、薬剤師または登録販売者に相談することが必要です。

共通事項解説〔5〕参照

【使用上の注意】

【解 説】

共通事項解説はこちら

- (5)次の診断を受けた人。
心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2.服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
その他	過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死融解症、急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

3.5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

アセトアミノフェンは、過剰服用した場合には、代謝物が肝を障害することがあるため、肝臓病の人が服用すると疾患を悪化させることがあります。

また、NSAIDs（アスピリン、イブプロフェン等）と比較すると末梢でのプロスタグランジン合成阻害作用は弱いものの、腎血流量の低下、水、Naの貯留傾向により、心臓病、腎臓病の人が服用すると疾患を悪化させることがあります。同様に、消化管粘膜の保護に関係のあるプロスタグランジンへの影響は少ないものの、胃・十二指腸潰瘍の人が服用すると、疾患を悪化させることがあります。

よって、これらの診断を受けた人は本剤の服用前に医師、薬剤師または登録販売者に相談する必要があります。

本剤の服用により、人によってはこれらの症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合には服用を中止し、医師、薬剤師または登録販売者に相談していただくための注意です。

本剤に配合されている成分により、まれに下記の報告があります。これらの症状が認められた場合は直ちに服用を中止し、早急に医療機関での適切な処置をとることが必要です。

①ショック（アナフィラキシー）⁶⁾：急性汎発性発疹性膿疱症²¹⁾、肝機能障害¹⁰⁾、腎障害¹¹⁾、間質性肺炎¹²⁾、ぜんそく⁹⁾：アセトアミノフェンが原因の可能性がります。

②皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）⁷⁾、中毒性表皮壊死融解症⁸⁾：すべての薬剤で起こり得る可能性が否定できません。

用語解説 6)～12)、21) 参照

5～6回服用しても症状がよくなる場合は、他に原因があることも考えられます。症状がよくなるまま服用を続けると悪化することも考えられるため、医師、歯科医師、薬剤師または登録販売者に相談していただくための注意です。

<用法・用量に関連する注意>

(1)用法・用量を厳守してください。

共通事項解説〔7〕参照

(2)錠剤の取り出し方

錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用してください（誤ってそのままのみ込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。）。



共通事項解説〔8〕参照

保管及び取扱い上の注意

(1)直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。

共通事項解説〔9〕参照

(2)小児の手の届かない所に保管してください。

共通事項解説〔10〕参照

(3)他の容器に入れ替えないでください（誤用の原因になったり品質が変わります。）。

共通事項解説〔11〕参照

(4)使用期限をすぎた製品は服用しないでください。

共通事項解説〔14〕参照